

海外現地法人の動向（要旨）

＜海外現地法人四半期（平成 20 年 4-6 月期）調査＞

～平成 20 年 8 月実施～

平成 20 年 9 月 26 日

調査統計部企業統計室

★ 北米の見通し、7 年ぶりのマイナス水準

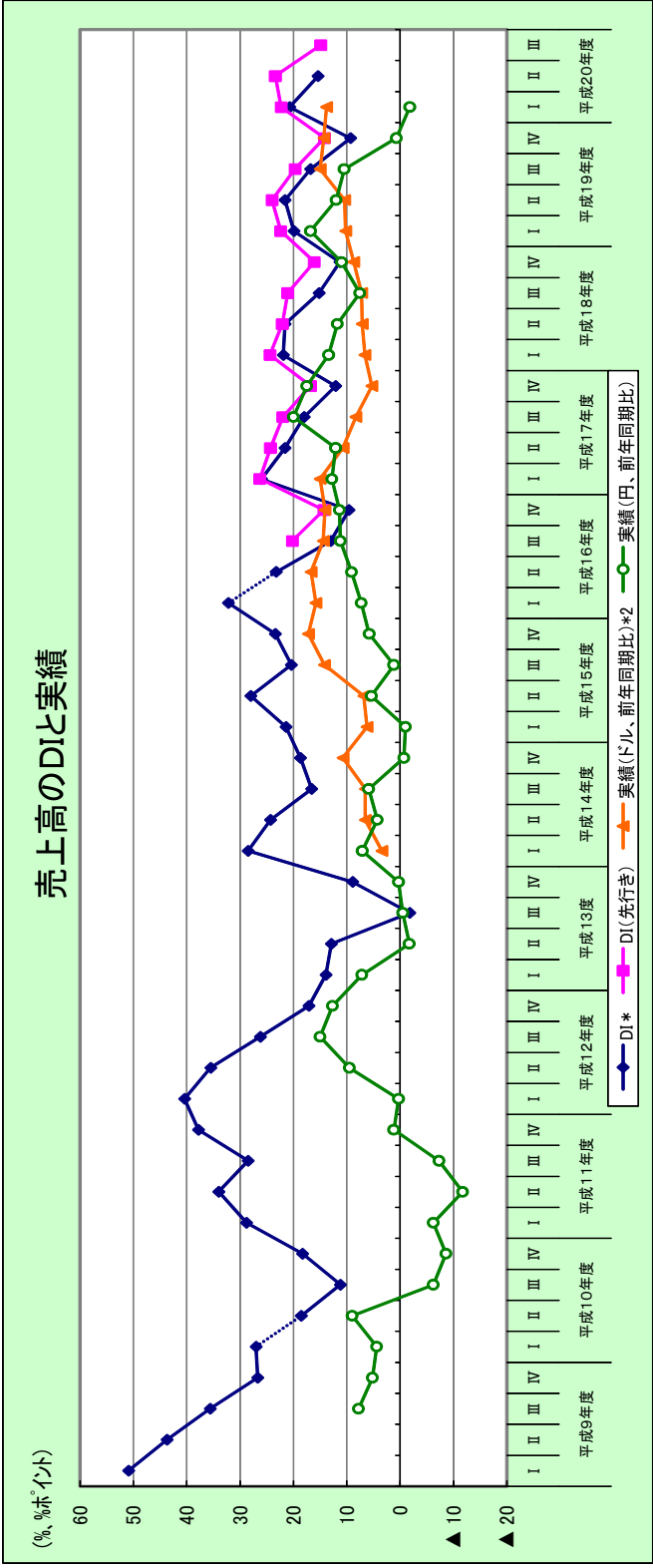
☆見通し（現状判断 DI（*1）：平成 20 年 7-9 月、先行き DI：10-12 月）

1. 売上高 DI は、現状判断、先行きとも、前年同期比プラス幅縮小。
アジアは、前年同期比でプラス幅をやや縮小し、北米及び欧州は大幅に悪化。北米は、現状判断 DI▲5.6、先行き DI▲3.5 と、約 7 年ぶりのマイナス水準。特に輸送機械は、現状判断 DI▲26.4、先行き DI▲13.3 と、大幅なマイナス。
2. 設備投資額 DI は、現状判断、先行きとも、前年同期比プラス幅縮小。
アジアは、前年同期比で概ね横ばいとなったが、北米及び欧州は悪化。特に北米は、先行き DI▲0.7 と、約 7 年ぶりのマイナス水準。
3. 従業者数 DI は、現状判断、先行きとも、前年同期比プラス幅縮小。
アジアは、前年同期比で概ね横ばいとなったが、北米及び欧州は悪化。特に北米は、先行き DI▲9.8 と、前年同期比▲17.8 ポイント悪化し、マイナス水準。

☆実績（平成 20 年 4-6 月、前年同期比伸び率）

1. 売上高（ドルベース）は、前年同期比 13.3%増と、5 期連続 2 桁台の増加。
アジア（同 18.8%増）及び欧州（同 14.5%増）は 2 桁台の増加を続けたが、北米（同 2.6%増）は 4 期連続 1 桁台の増加。
2. 設備投資額（ドルベース）は、前年同期比 36.3%増と、2 期連続大幅な増加。
北米（同 44.7%増）、アジア（同 38.5%増）、欧州（同 14.7%増）とも、2 期連続 2 桁台の増加。
3. 従業者数は、前年同期比 3.1%増と、引き続き増加。
アジア（同 3.7%増）、欧州（同 2.8%増）、北米（同 0.8%増）とも、引き続き増加。

*1 DI：調査実施時点を含む四半期（現状判断）及びその翌四半期（先行き）に関し、それぞれ前四半期と比較した見通し（「増加」「不変」「減少」）を調査。DI＝「増加」と回答した企業の構成比－「減少」と回答した企業の構成比（%ポイント）
なお、今回調査より、DI の比較は前年同期比に変更した（現状判断 DI は前年同期の現状判断 DI と、先行き DI は前年同期の先行き DI と比較）。また、本文中は、DI 値は数値のみ（例▲5.5）、前年同期比は数値に「ポイント」を付して（例▲5.5 ポイント）記述。



*: DIの調査対象期間は、平成9年度調査は調査実施時期を含む四半期、平成10年度～平成15年度調査までは半年（調査実施時点を含む四半期及びひその翌四半期）。平成16年度調査より、前年度までの半年の調査期間を、現状判断（調査実施時期を含む四半期）と先行き（翌四半期）に分割。

*2:ドルベースの実績値は平成13年度データより公表。

見通し

1. 売上高

<全地域>

○現状判断D I（平成 20 年 7-9 月期）は、+15.0 と、前年同期比（平成 19 年 7-9 月期の現状判断D I に比べ）▲6.6 ポイントプラス幅縮小。主要業種は、電気機械を除き、プラス幅縮小。
○先行きD I（平成 20 年 10-12 月期）は、+14.4 と、前年同期比（平成 19 年 10-12 月期の先行きD I に比べ）▲5.3 ポイントプラス幅縮小。主要業種は、電気機械を除き、プラス幅縮小。

<北米>

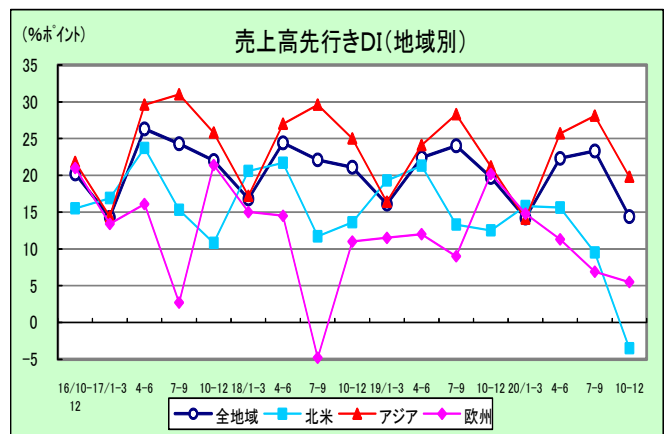
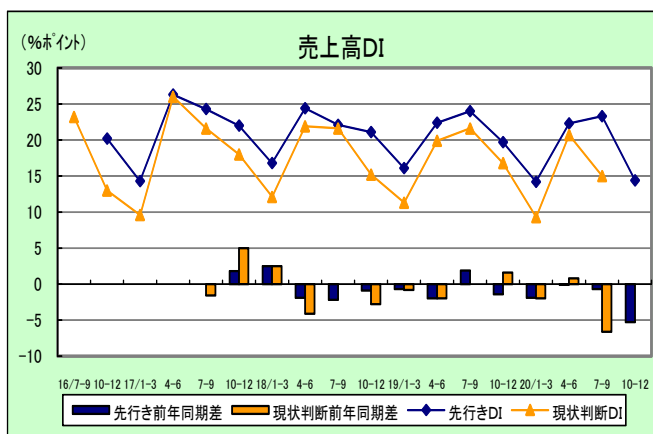
○現状判断D I は、▲5.6 と、平成 13 年 7-9 月期調査（13 年 10 月－14 年 3 月期の見通し）以来のマイナス水準。前年同期比▲16.6 ポイントと大幅に悪化。輸送機械は、▲26.4 と、調査開始以来最低の水準。
○先行きD I は、▲3.5 と、マイナス水準。同▲16.0 ポイントと大幅に悪化。化学を除く主要業種が悪化し、特に輸送機械は、同▲27.4 ポイントと大幅に悪化。

<アジア地域>

○現状判断D I は、+21.8 と、前年同期比▲4.7 ポイントプラス幅を縮小したが、引き続き 2 桁台のプラス水準。化学は同▲21.5 ポイントプラス幅を縮小したが、主要業種は、すべて 2 桁台のプラス水準。NIEs3(*2)（同▲11.9 ポイント）及び中国(*3)（同▲8.5 ポイント）はプラス幅を縮小したが、ASEAN4(*4)（同+0.9 ポイント）はプラス幅拡大。
○先行きD I は、+19.8 と、同▲1.4 ポイントプラス幅縮小。主要業種は、すべて 2 桁台の水準。中国（同▲4.6 ポイント）はプラス幅を縮小したが、NIEs3（同+1.9 ポイント）及び ASEAN4（同+0.9 ポイント）はプラス幅拡大。

<欧州>

○現状判断D I は、▲7.5 と、前年同期比▲5.7 ポイントマイナス幅拡大。一般機械は、同▲30.9 ポイントと大幅に悪化し、マイナス水準。
○先行きD I は、+5.5 と、同▲14.7 ポイントの大幅なプラス幅縮小。主要業種は、プラス幅を縮小し、特に一般機械は、同▲48.8 ポイントと大幅に悪化。



* 2 ～ * 4 ASEAN4 : インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア

NIEs3 : シンガポール、大韓民国、台湾

中国 : 香港含む

見通し

2. 設備投資額（有形固定資産（土地を除く）の当期取得額）

<全地域>

○現状判断D I（平成 20 年 7-9 月期）は、+15.8 と、前年同期比（平成 19 年 7-9 月期の現状判断D I に比べ）▲2.3 ポイントプラス幅縮小。

○先行きD I（平成 20 年 10-12 月期）は、+10.0 と、前年同期比（平成 19 年 10-12 月期の先行きD I に比べ）▲2.2 ポイントプラス幅縮小。主要業種は、一般機械、輸送機械及び電気機械がプラス幅縮小。

<北米>

○現状判断D I は、+1.5 と、前年同期比▲11.3 ポイントプラス幅縮小。主要業種は、化学を除き、悪化。

○先行きD I は、▲0.7 と、同▲6.0 ポイント悪化し、平成 13 年 7-9 月期調査以来のマイナス水準。主要業種では、輸送機械、電気機械及び一般機械が悪化。

<アジア地域>

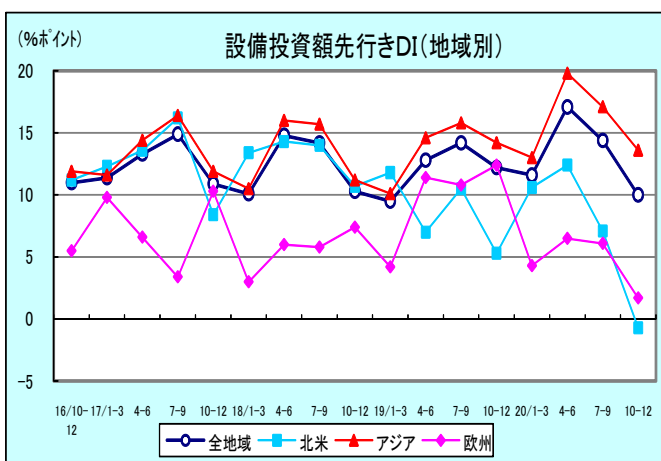
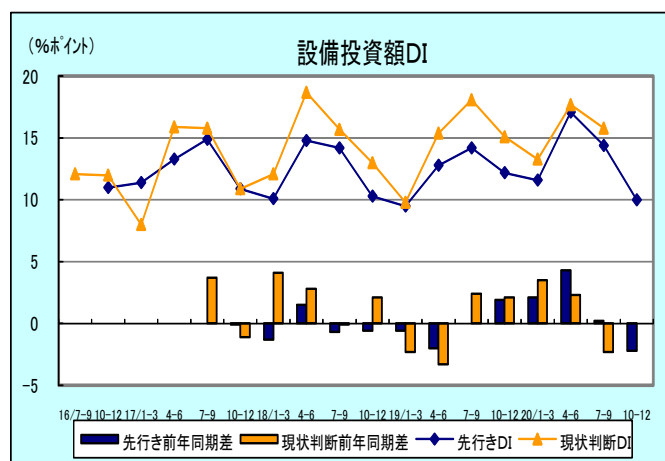
○現状判断D I は、+19.5 と、前年同期比横ばい。主要業種は、鉄鋼及び輸送機械がプラス幅縮小。中国（同+4.0 ポイント）はプラス幅拡大したが、ASEAN4（同▲0.8 ポイント）及びNIEs3（同▲10.7 ポイント）はプラス幅縮小。

○先行きD I は、+13.6 と、同▲0.6 ポイントプラス幅縮小。主要業種は、一般機械及び輸送機械がプラス幅縮小。中国（同▲3.0 ポイント）はプラス幅縮小したが、ASEAN4（同+1.6 ポイント）及びNIEs3（同+3.1 ポイント）はプラス幅拡大。

<欧州>

○現状判断D I は、+8.5 と、前年同期比▲8.5 ポイントプラス幅縮小。すべての主要業種が悪化し、特に一般機械は、同▲28.6 ポイントと大幅に悪化。

○先行きD I は、+1.7 と、同▲10.7 ポイントプラス幅縮小。すべての主要業種が悪化し、特に化学及び一般機械は、大幅に悪化。



見通し

3. 従業者数

<全地域>

- 現状判断D I（平成 20 年 7-9 月期）は、+6.6 と、前年同期比（平成 19 年 7-9 月期の現状判断 D I に比べ）▲3.2 ポイントプラス幅縮小。主要業種は、一般機械を除き、プラス幅縮小。
- 先行きD I（平成 20 年 10-12 月期）は、+4.9 と、前年同期比（平成 19 年 10-12 月期の先行き D I に比べ）▲3.5 ポイントプラス幅縮小。主要業種は、化学を除き、プラス幅縮小。

<北米>

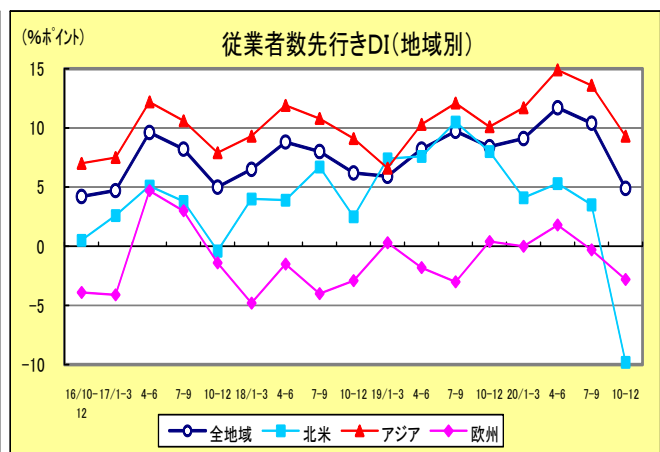
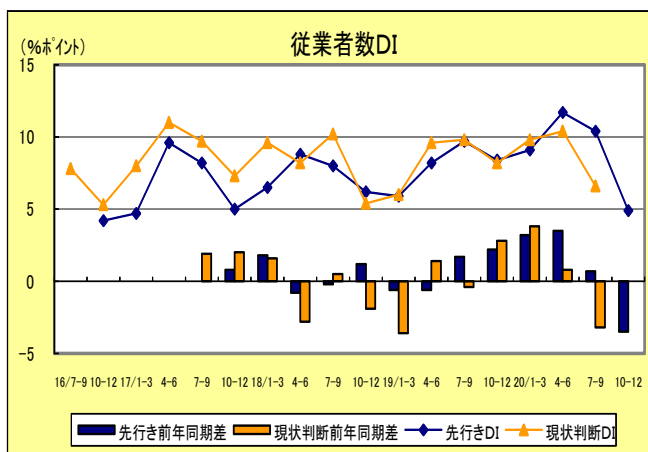
- 現状判断D I は、▲8.1 と、前年同期比▲16.2 ポイント大幅に悪化し、マイナス水準。主要業種はすべて悪化し、化学を除きマイナス水準。
- 先行きD I は、▲9.8 と、同▲17.8 ポイント大幅に悪化し、マイナス水準。主要業種はすべて悪化し、特に輸送機械は、同▲30.8 ポイントと大幅に悪化。

<アジア地域>

- 現状判断D I は、+10.8 と、前年同期比▲1.5 ポイントプラス幅縮小。鉄鋼、輸送機械及び化学がプラス幅縮小。中国（同▲3.0 ポイント）、ASEAN4（同▲1.7 ポイント）、NIEs3（同▲1.3 ポイント）ともプラス幅縮小。
- 先行きD I は、+9.3 と、同▲0.8 ポイントプラス幅縮小。主要業種は、化学を除き、プラス幅縮小。ASEAN4（同+2.3 ポイント）はプラス幅を拡大したが、中国（同▲4.0 ポイント）はプラス幅を縮小し、NIEs3（同▲3.8 ポイント）はマイナス水準に転じた。

<欧州>

- 現状判断D I は、▲1.7 と、前年同期比▲0.7 ポイントマイナス幅拡大。電気機械が悪化し、マイナス水準。
- 先行きD I は、▲2.8 と、同▲3.2 ポイント悪化し、マイナス水準。主要業種は、一般機械が同▲17.6 ポイントと大幅に悪化し、電気機械は、マイナス幅拡大。



<参考>D Iの詳細は、報告書「海外現地法人の動向」P 4～P 15、「統計表」P 21～P 41をご覧ください。

実績

1. 売上高

<全地域>

○売上高実績（平成 20 年 4-6 月期、ドルベース）は、前年同期比 13.3%増と、5 期連続 2 桁台の増加。主要業種は、化学の同 20.0%増、一般機械の同 14.2%増など、電気機械の同 9.5%増を除き、2 桁台の増加。

<北米 : 売上高のシェア 31.0%>

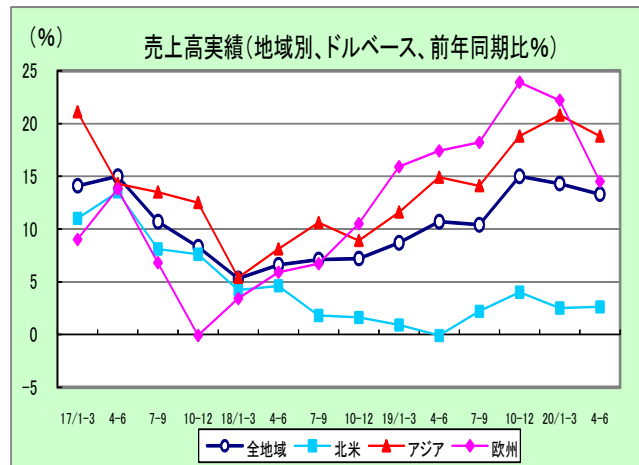
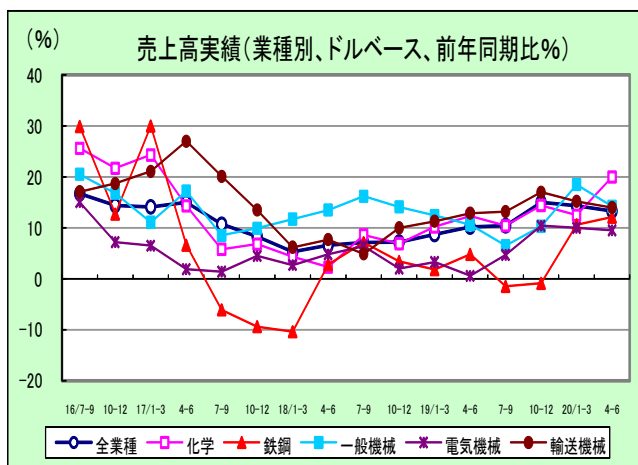
○前年同期比 2.6%増と、4 期連続 1 桁台の増加。輸送機械は同▲1.6%減と 7 期ぶりの減少となったが、鉄鋼及び化学が 2 桁台の増加。

<アジア地域 : 売上高シェア 41.9%>

○前年同期比 18.8%増と、6 期連続 2 桁台の増加。主要業種は、輸送機械の同 28.4%増、化学の同 23.1%増など、電気機械の 9.8%増を除き、2 桁台の増加。中国（同 24.3%増）及び ASEAN4（同 18.2%増）は 2 桁台の増加を維持し、NIEs3（同 7.0%増）も引き続き増加。

<欧州 : 売上高シェア 19.6%>

○前年同期比 14.5%増と、7 期連続 2 桁台の増加。主要業種は、化学の同 20.6%増、輸送機械の同 15.4%増など、すべて 2 桁台の増加。



<参考>実績の詳細は、報告書「海外現地法人の動向」P 16～P 27、「統計表」P 1～P 20をご覧ください。

実績

２．設備投資額（有形固定資産（土地を除く）の当期取得額）

<全地域>

○設備投資額実績（平成 20 年 4-6 月期、ドルベース）は、前年同期比 36.3%増と、2 期連続大幅に増加。化学は 5 期ぶりにやや増加し、その他の主要業種は、鉄鋼の同 89.9%増、電気機械の同 59.4%増など、大幅に増加。

<北米 ：設備投資額シェア 30.7%>

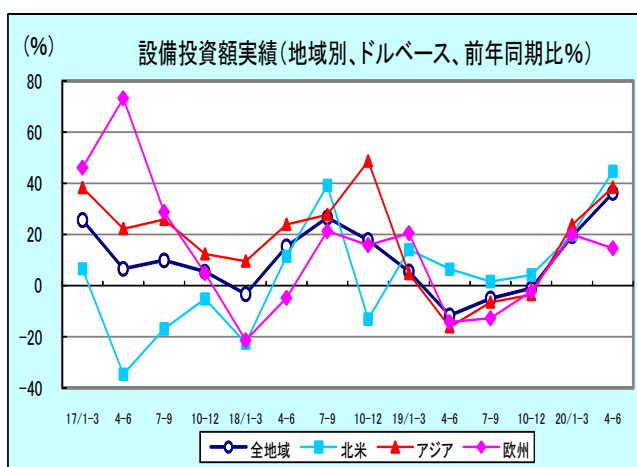
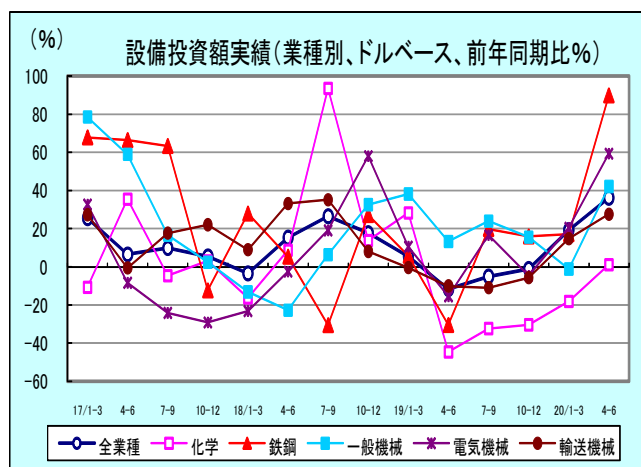
○前年同期比 44.7%増と、2 期連続大幅に増加。電気機械は同 3.3%増と 1 桁台の増加となったが、その他の主要業種は、鉄鋼の同 136.4%増、輸送機械の同 48.0%増など、大幅に増加。

<アジア地域 ：設備投資額シェア 49.2%>

○前年同期比 38.5%増と、2 期連続大幅に増加。化学は 5 期連続 2 桁台の減少となったが、その他の主要業種は、一般機械の同 72.2%増、鉄鋼の同 69.2%増など、大幅に増加。中国（同 72.6%増）は大幅に増加し、NIEs3（同 16.5%増）は 5 期ぶりに増加。ASEAN4（同 1.2%増）は 3 期連続増加。その他アジア（同 129.4%増）は、輸送機械を中心に大幅に増加。

<欧州 ：設備投資額シェア 14.1%>

○前年同期比 14.7%増と、2 期連続 2 桁台の増加。輸送機械は同▲7.6%減と 4 期連続減少したが、その他の主要業種は、電気機械の同 66.3%増、化学の同 29.3%増など、大幅に増加。



実績

3. 従業者数

<全地域>

○従業者数実績（平成 20 年 6 月末）は、前年同期比 3.1%増と、引き続き増加。
主要業種は、輸送機械（同 8.1%増）及び一般機械（同 6.1%増）は、引き続き増加し、化学（同 1.4%増）及び電気機械（同 0.1%増）は増加に転じた。鉄鋼（同▲5.5%減）は、4 期連続減少。

<北米 : 従業者数シェア 13.1%>

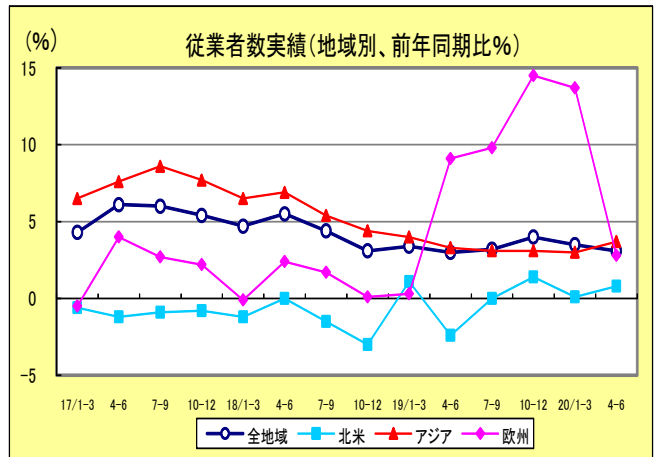
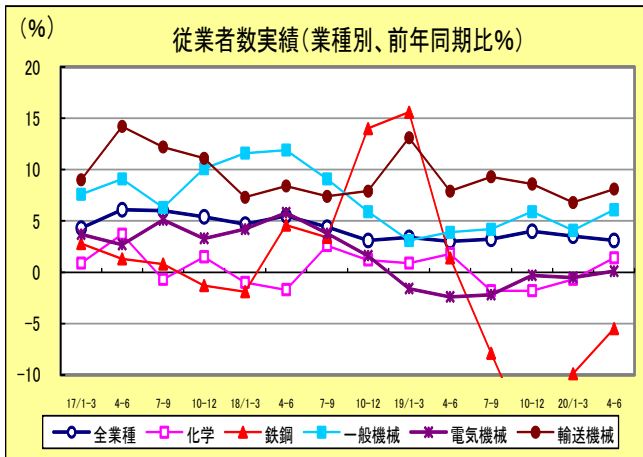
○前年同期比 0.8%増と、4 期連続増加。主要業種は、化学及び輸送機械は、引き続き増加。電気機械、鉄鋼及び一般機械は、引き続き減少。

<アジア地域 : 従業者数シェア 72.0%>

○前年同期比 3.7%増と、引き続き増加。輸送機械は同 12.7%増と 2 桁台の増加を維持し、一般機械も引き続き増加。化学及び電気機械はわずかに増加したが、鉄鋼は 4 期連続減少。中国（同 3.7%増）、ASEAN4（同 2.0%増）、NIEs3（同 1.8%増）とも増加。

<欧州 : 従業者数シェア 9.0%>

○前年同期比 2.8%増と伸び率を縮小。主要業種は、輸送機械は同 8.7%増と引き続き増加し、一般機械はわずかに増加したが、電気機械及び化学は減少に転じた。



<参考> 海外経済

世界の景気は、減速の動きに広がりが見られる。アメリカでは、景気は弱含んでおり、後退局面入りの懸念がある。アジアでは、中国等で景気は拡大が続いている。中国では、景気は拡大が続いている。固定資産投資は高い伸びが続いている。マレーシアでは、景気は拡大している。台湾では、景気の拡大は緩やかになっている。タイでは、景気は緩やかに回復している。韓国では、景気は減速している。シンガポールでは、外需を中心に景気は減速している。ユーロ圏、ドイツ、フランス、英国では、景気は弱含んでいる。（月例経済報告（平成 20 年 9 月）より抜粋）